

東北福祉大学大学院
教育学研究科

Graduate School of Education

教 育 を 科 学 す る



東北福祉大学
TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
履修登録		研究 発表会				研究 発表会			修士論文 提出	修士論文 口述試験	
研究 研究計画が固まり、調査や実践など本格的に実施する						研究 修士論文を執筆する					
研究倫理審査 (随時申請)										修士論文 研究発表会	

「共生社会の実現に向けた教育」を研究・実践できる人材の養成

教育学研究科は、教育学部を基盤に、さらに高度な人材育成を意図して設立され、基本的な考えは学部に通じます。すなわち、共生社会における教育者の育成ですが、その基盤に「研究」がなければなりません。「研究」とは、①課題を発見し、②課題解決のためのデータを収集し、③分析して解決法を導き、④その解決法（成果）を文字や言語で表現することですが、「教育」という実践的分野では、さらに⑤現場への働きかけ（検証）が重要であり、そうして①に戻る、を繰り返すことに他なりません。机上の空論ではなく、実証的に、実践を介して子どもを高度に理解することであり、そのための研究手法を体得することが大学院修士課程の役割といえるでしょう。

共生社会の教育とは、子どもに対する豊かな心と、冷静に子どもを把握しようとする姿勢に立脚し、すべてを受け入れることのできる capacity の広さにあります。これらを兼ね備えた実践的教育者をめざして、ともに学びたいと思います。



教育学研究科長
庭野 賀律子

特別支援教育の実践的な学び



東北福祉大学の「実習支援センター 特別支援教育研究室」では、発達障害のある子どもたちへの学習支援や SST の指導等を行っています。大学院生は、特別支援教育を専門とする本学教員の指導のもと、実際に子どもたちとかかわりながら実践的に学ぶことができます。

教育学研究科の目的・ポリシー（抜粋）

アドミッション ポリシー

教育への使命感と熱意を持ち、特別な教育的ニーズを有する児童生徒にかかわる諸問題について関心が高く、自らの知識・技能を高め、高い専門性と実践力を身につけ、それら諸問題を多面的に研究したいという方の入学を希望します。

カリキュラム ポリシー

「共生社会」の構築に貢献するという本研究科の理念のもと、教育に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える理論的基礎を学修します。さらに、特別な教育的ニーズを有する児童生徒にかかわる諸問題を自ら発見する視点を学修し、その具体的かつ実践的な解決策を探究してきた過程を修士論文としてまとめます。

ディプロマ ポリシー

特別な教育的ニーズを有する児童生徒への教育に関する高度な資質・能力とそれらを支える理論的基礎に基づき、「共生社会」の構築に向けて現代社会が抱える問題を発見し、教育に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる研究者、高度職業人として認められたものに「修士（教育学）」を授与します。

1年次学費※（2027年度予定）

739,700円
学内進学者は580,200円

※入学金・授業料等は変更となる場合があります。詳細は教務部・大学院事務室へお問い合わせください。 入学定員 10 名 / 収容定員 20 名



大西 孝志 (おおにし たかし) 【教授】 専門 聴覚障害教育

聴覚に障害がある子どもがどのように言語を習得していくのかということ及びそれを指導する教師の専門性とは何かということを研究しています。
著書・論文：『インクルーシブ教育システム時代の就学相談・転学相談』（ジアース教育新社・2021年）、「手話・言語・コミュニケーション10 ろう学校理容科・美容科の歴史（1）」（文理閣・2022年）など

金 彦志 (キム オンジ) 【教授】 専門 知的障害・発達障害教育

特別支援教育士 SV。知的障害児と発達障害児の認知・行動特性を踏まえた指導方法や合理的配慮について研究を行っています。
著書・論文：「教員養成課程における知的障害の心理・生理・病理に関する教育課程の分析」(Journal of Inclusive Education 2018)、「Study of Treatments and their Effects on Behavior Improvement of Children with Problem Behavior such as ADHD」(Asian Journal of Human Services 2015)



杉浦 徹 (すぎうら とおる) 【教授】 専門 障害児の教育方法

障害のある子ども達のための ICT や教材教具を活用した学習やコミュニケーション支援に関する実践的な研究をしています。
著書・論文：『絵で見てわかる！視覚支援のカード・教材 100 -自分で「できる!」を楽しく増やす』(学研プラス・2021)、「教材を作ってわかる肢体不自由教育」(肢体不自由教育 236 号・2018) など

和 史朗 (にぎ しろう) 【教授】 専門 肢体不自由教育・重複障害教育

肢体不自由児の運動・動作の解析や、その他の障害のある子どもたちの様々な学習の成立条件について、行動分析学の手法を用いて研究しています。
著書・論文：『重度障害者を対象とした野球指導の実践方法に関する研究 -ゴロ野球の指導を通じた投球動作の改善-』(アダプテッド体育・スポーツ学研究・2016)、『共生社会の実現 -北海道の特別支援教育から-』(北海道通信社・2009) など



庭野 賀津子 (にわの かつこ) 【教授】 専門 言語障害学・聴覚障害学

言語聴覚士・公認心理師・臨床心理士。言語障害と聴覚障害の心理及び指導法と、発達障害や知的障害におけるコミュニケーション発達を研究領域とし、音声の音響分析や脳機能計測等を用いながら、臨床的・実践的研究を行っています。
著書・論文：『親乳児間における音声相互作用の発達の研究』(風間書房・2005)、「Activity changes in the left superior temporal sulcus reflect the effects of childcare training on young female students' perceptions of infants' negative facial expressions」(Neuroscience Research・2017)、『特別支援教育支援員ハンドブック』(日本文化科学社・2010) など

黄 淵熙 (ファン ヨンヒ) 【教授】 専門 発達障害児教育

特別支援教育士 SV。発達障害児の学習困難を中心とした基礎研究を進めて同時に、教材、指導方法の開発など実証的研究にも力を注いでいます。
著書・論文：「Meta-analyses of individual versus group interventions for pre-school children with autism spectrum disorder (ASD)」(PLOS ONE・2018)、「Working Memory in Japanese Children with Learning Disabilities: Assessment Using the Japanese Short Form of the Swanson Cognitive Processing Test」(Japanese Journal of Special Education・2007) など



森山 貴史 (もりやま たかし) 【准教授】 専門 病弱教育

主な研究領域は病弱教育で、「授業研究」「教師教育(教員研修)」「実践史」をキーワードに、日々の教育実践の質を高める方法について研究しています。また、病弱児への自立活動等の指導において培われる専門性は、発達障害や情緒障害といった他障害種の教育にも応用・展開できる可能性があると考えています。特別支援教育の更なる推進に向け、理論と実践の両面から共に学びましょう。
著書・論文：『病弱教育における発達障害を併せ有する心身症等の児童生徒を対象とした実践研究の動向 -特別支援学校(病弱)の実践資料の検討から』LD 研究、第 27 巻(4)、2018 ほか

上條 晴夫 (かみじょう はるお) 【教授】 専門 教育方法・教師教育

国語科教育を主なフィールドにしながら教育方法・教師教育について研究をしています。研究テーマはワークショップ、協働学習、リフレクションなどです。

著書・論文：『教師教育—いま、考えるべき教師の成長とは—』（さくら社・2015）、『理想の授業づくり』（ナカニシヤ出版・2017）など



鍛代 敏雄 (きたい としお) 【教授】 専門 歴史学

時代は中世、分野は社会史・経済史・宗教史および戦国時代史です。近年は、神社史料のアーカイブズ論の観点から古文書学を研究、文化庁や京都府庁の専門官とともに重要文化財の調査を行っています。

著書・論文：『戦国大名の正体』（中公新書、2015年）、「新出の織田信長禁制写」（『交通史研究』104号、2024年）など

白井 秀明 (しらい ひであき) 【教授】 専門 教育心理学

教授学習心理学が専門。“子どもの「つまずき」には100%の間違いはない、”という学習観を土台に、子どもの“学ぶ”と教員の“教える”という2つの過程の交互作用をダイナミックにつくり出す授業方法について小学理科・算数の授業を中心に実践的に研究しています。

著書・論文：『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学（改訂版）』（八千代出版・2019）など



藤野 敦 (ふじの あつし) 【教授】 専門 歴史教育 社会科教育 教育課程

歴史学と歴史教育の関係、学校における歴史教育の在り方や求められる教育課程の姿などについて研究しています。学校と行政、社会状況など様々な関係や影響を踏まえ、歴史教育や社会科教育の在り方を共に学んでいきましょう。

著書・論文：「グローバル時代に求められる資質・能力と社会科学学習」土屋武志・真島聖子・白井克尚編『子どもがつながる社会科の展開 ～地域・世界と共に～』、日本文教出版、2024、『高等学校地理歴史科公民科必履修科目ガイド』、学事出版、2022 ほか

大谷 誠一 (おおたに せいいち) 【准教授】 専門 地理教育

中学校社会科地理的分野、高校地歴科の地理の教材分析や指導法、特に効果的な野外調査（フィールドワーク）の実施についての研究を行っています。また、国際地理オリンピックの代表選手の研修活動にも携わっています。

著書・論文：吉水裕也（編）、大谷誠一、佐藤克士、『本当は地理が苦手な先生のための中学社会地理的分野の授業デザイン&実践モデル』、明治図書出版、2018



金井 徹 (かない とおる) 【准教授】 専門 教育学・教育政策の思想史

主に戦後日本の教育政策に関して、思想史の方法を用いて研究を行っています。近代公教育システムの成立と、その基盤となる思想、そして、その課題と今後の展開に関心を持っています。

著書・論文：「三項図式を手がかりとした戦後教育理念の思考枠組の検討—三項の相互媒介関係に着目して—」（『教育学研究』第90巻第1号、2023）、「務台理作のヒューマニズム論と戦後教育理念—相互媒介的三項図式をてがかりに—」（『教育学研究』第93巻第1号、2026）など

山下 祐一郎 (やました ゆういちろう) 【准教授】 専門 教育工学・教育情報学

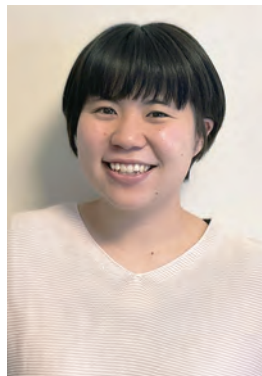
プレゼンテーションやプログラミングなどに代表される情報活用能力（情報モラルを含む）の育成が主な研究テーマです。また、ICT（情報通信技術）を使った先進的な教育環境にも興味があります。自分の専門性を深めたい方にとって大学院は楽しいと思います。

著書・論文：「小学生を対象としたフリック入力の学習方法の開発」日本教育工学会論文誌、2018 ほか



学生の声

私は、学部在学中に経験した二度の教育実習を通じて、児童生徒と共に学び合うことの重要性を深く実感しました。特に、特別支援学校での実習では、その難しさと奥深さに触れ、より専門的な知識を身につけて教壇に立ちたいという思いが高まり、大学院への進学を決意しました。現在は、特別支援学校における自立活動の内容を主な研究テーマとし、子どもたちが自分らしく社会と関わっていくための支援のあり方について探究しています。修了後は、特別支援学校の教員として現場に立ち、実践と研究で得た知見を教育に生かしていくことを目標としています。



学生の声
voice

東北福祉大学出身
修士課程1年
松元 凜さん

学部時代は小学校英語教育のゼミに所属し、絵カードをはじめとした教材教具の作成や模擬授業の実践など、多くの活動を通して小学校英語の学習指導について学びました。また、特別支援教育の学びや教育実習を通して、学校現場には特別な支援を必要とする児童が多くいることを実感しました。そこで、全ての児童にとって学びやすい、ユニバーサルデザインを用いた英語の授業について研究したいと思い、大学院への進学を決めました。現在は、英語に限らず、全ての教科におけるユニバーサルデザインの有効性について研究しています。



学生の声
voice

東北福祉大学出身
修士課程2年
高橋 麗后さん

これまでの修士論文題目の例

- デジタル教科書活用と課題に関する一考察
- 中堅小学校教員は防災教育の簡便な授業を共同的に考案することをどのように体験するか
－ SCQRM をメタ研究法とした修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチによるモデル化－
- 高等学校地理歴史科「地域社会の歴史と文化」の教材化に関する一試論－地籍図・地形図を活用した歴史景観の復原を中心に－
- 学習に困難を抱えた児童に対する刺激等価性の枠組みを用いた漢字の読字指導－散在手続きを導入した指導プログラム効果の検討－
- 自閉症スペクトラム障害児の不登校及び登校促進要因に関する研究
- 文字の読み書きに困難を示す児童の文字学習の系統性について－聴覚法・意味付加法による指導を通して－
- 小学校4年社会科における「開発単元」－角田市の明治・大正期の灌漑をめぐる開発事例の教材化をめざして－
- 中等地理教育における地域調査学習の実施拡大に向けた実践的研究－ICTを活用した地域調査学習教材のモデル教材開発と検証－
- 金銭の自己管理能力の獲得が知的障害者の消費生活とQOLに及ぼす効果の検討
- 文字の読み書きに困難さを示す児童への学習支援－PP教材、代替機器としてのICT活用の検討－
- 聴覚障害特別支援学校の乳幼児教育相談に関する研究
- 子どもの時間概念と時間処理に関する研究
- 仙台藩領における潜伏キリシタンの実態－製鉄業との関連を中心に－
- 小学校における海洋プラスチック問題を手がかりとした環境教育学習モデルの構築
- 教育実践におけるSDGsの現状と課題に関する一考察－実践者インタビューを基に－

修了生の声

私は、障害児・者を取り残さないインクルーシブな防災教育について研究を行いました。その中で、「福祉」と「教育」の2つの分野を切り離さず学ぶことができたのはこの大学院だったからこそだと思います。学部と比べ少人数での講義が多いため、先生方との距離が近いことも魅力の一つです。講義内外で多角的な視点から丁寧な指導をしてくださり、今後の糧となる充実した院生活を送ることができました。現在は特別支援学校に勤務しておりますが、大学院の学びの中で身に付けた「常に思考する力」がいきっていると実感しています。2年間で基礎研究として、今後も継続した実践や研究を行ってまいります。



修了生の声
voice

2023年度修了
(特別支援学校教諭)
後藤 真奈美さん

大学院では、タブレット端末を活用した「学習者参加型」の教材作成が学習意欲に与える影響をテーマに研究に取り組みました。読みに困難さのある生徒自身が教材の構成に参画することで、学習への抵抗感を軽減する方策を検討し、修士論文としてまとめました。大学院での学修を通して、自身の考えを言語化し整理する論理的思考力が生まれ、確かな力として身につきました。現在は、その力を教育現場で生かし、子どもたちが学習に興味を持てるようICT活用を実践しています。今後は、大学院での研究と現場での実践を融合させ、一人一人の可能性を伸ばす教育を追究していきたいと考えています。



修了生の声
voice

2025年度修了
(特別支援学校教諭)
工藤 陸さん

教員一覧（2026 年度）

氏名	職位等	授業名
庭野 賀津子	教育学研究科長	言語障害者教育特論 教育学特別研究Ⅲ（特別支援教育分野）
石原 直	教授	算数科教育特論
岩寺 良太	教授	児童精神医学特論
大西 孝志	教授	特別支援教育学特論 聴覚障害者教育特論
加藤 幸男	教授	理科教育特論 授業分析研究B（自然科学系領域）
上條 晴夫	教授	国語科教育特論 教師教育学特論 授業分析研究A（人文社会科学系領域）
鍛代 敏雄	教授	歴史学特論
金 彦志	教授	特別支援教育特論 発達障害児教育実践研究
白井 秀明	教授	授業開発研究特論 教育学特別研究Ⅰ（教育・発達分野） 教授学習心理学特論 授業分析研究B（自然科学系領域） 教育心理学特論
杉浦 徹	教授	知的障害者教育特論 自閉症者・情緒障害者教育特論 発達障害児教育実践研究
和 史朗	教授	肢体不自由者教育特論
黄 淵熙	教授	発達障害者教育特論 障害児学習支援特論 発達障害児教育実践研究
藤野 敦	教授	地域調査特別研究（実習を含む）
三浦 和美	教授	社会科教育特論 授業分析研究A（人文社会科学系領域）
上村 裕樹	准教授	保育学特論
大関 信隆	准教授	障害児・者の心理特論
大谷 誠一	准教授	地理学特論 地域調査特別研究（実習を含む）
金井 徹	准教授	教育思想史特論
森山 貴史	准教授	病弱者教育特論
山下 祐一郎	准教授	教育情報学特論 教育学特別研究Ⅱ（教育情報分野）
佐藤 英仁	教授（兼）	経済学特論
萩野 寛雄	教授（兼）	政治学特論 福祉社会学特論
三浦 剛	教授（兼）	障害者福祉特論
平川 昌宏	准教授（兼）	臨床発達心理学特論
加納 隆徳	非常勤講師	法律学特論
戸村 理	非常勤講師	教育社会学特論

※（兼）は他研究科等と兼務 ※ 2027 年度は変わることがあります。



入試日程

	区 分	出願期間	試験日
教育学研究科修士課程	一般選抜Ⅰ期	2026年11月11日(水)～11月26日(木)	2026年12月6日(日)
	社会人選抜Ⅰ期	2026年11月11日(水)～11月26日(木)	2026年12月6日(日)
	特別選抜(学内)Ⅰ期	2026年9月28日(月)～10月22日(木)	2026年10月31日(土)
	一般選抜Ⅱ期	2027年1月4日(月)～1月28日(木)	2027年2月6日(土)
	社会人選抜Ⅱ期	2027年1月25日(月)～2月10日(水)	2027年2月20日(土)
	特別選抜(学内)Ⅱ期	2027年1月25日(月)～2月10日(水)	2027年2月20日(土)

※入試日程は、諸事情により変更となる場合があります。最新の情報につきましては、教務部・大学院事務室までお問い合わせください。

修了及び専修免許状取得に必要な科目と単位 (2026年度)

科目区分	授業科目の名称	単位	履修年次	小専免	中(社会)専免	高(地歴)専免	高(公民)専免	特支専免 ^{*1}	修了
I. 研究指導	研究指導Ⅰ(研究・論文指導)	4	1年以上(通年)						④
	研究指導Ⅱ(研究・論文指導)	4	2年(通年)						④
II. 教育方法研究分野	教育思想史特論	2	1年以上(半期)	2	2	2	2		2
	教育社会学特論	2	1年以上(半期)	2	2	2	2		2
	教師教育学特論	2	1年以上(半期)	2	2	2	2		2
	教育情報学特論	2	1年以上(半期)	2	2	2	2		2
	教育心理学特論	2	1年以上(半期)	2	2	2	2		2
	教授学習心理学特論	2	1年以上(半期)	2	2	2	2		2
	臨床発達心理学特論	2	1年以上(半期)	2	2	2	2		2
	保育学特論	2	1年以上(半期)						2
	福祉社会学特論	4	1年以上(通年)						4
	教育学特別研究Ⅰ(教育・発達分野)	2	1年以上(半期)	2	2	2	2		② 以上
	教育学特別研究Ⅱ(教育情報分野)	2	1年以上(半期)	2	2	2	2		
	教育学特別研究Ⅲ(特別支援教育分野)	2	1年以上(半期)					2	
	授業分析研究A(人文社会科学系領域)	2	1年以上(半期)	2					2
	授業分析研究B(自然科学系領域)	2	1年以上(半期)	2					2
	授業開発研究特論	2	1年以上(半期)	2					2
	国語科教育特論	2	1年以上(半期)	②					2
	社会科教育特論	2	1年以上(半期)	②					2
	算数科教育特論	2	1年以上(半期)	②					2
	理科教育特論	2	1年以上(半期)	②					2
	歴史学特論	4	1年以上(通年)		④	④			4
	政治学特論	4	1年以上(通年)		④		④		4
	経済学特論	4	1年以上(通年)		④		④		4
	法学特論	4	1年以上(通年)		4		④		4
	地理学特論	4	1年以上(通年)		④	④			4
	地域調査特別研究(実習を含む)	4	1年以上(通年)		4	4			4
III. 特別支援教育研究分野	特別支援教育特論	2	1年以上(半期)					②	②
	発達障害者教育特論	2	1年以上(半期)					②	2
	障害児学習支援特論	2	1年以上(半期)					②	2
	障害児・者の心理特論	2	1年以上(半期)					2	2
	言語障害者教育特論	2	1年以上(半期)					2	2
	自閉症者・情緒障害者教育特論	2	1年以上(半期)					2	2
	聴覚障害者教育特論	2	1年以上(半期)					2	2
	知的障害者教育特論	2	1年以上(半期)					②	2
	肢体不自由者教育特論	2	1年以上(半期)					②	2
	病弱者教育特論	2	1年以上(半期)					②	2
	児童精神医学特論	2	1年以上(半期)					2	2
	障害児教育支援特論	2	1年以上(半期)					2	2
	障害者福祉特論	2	1年以上(半期)						2
	特別支援教育コーディネーター特論	2	1年以上(半期)					2	2
	発達障害児教育実践研究	2	1年以上(通年)					2	2

※○は修了および免許取得に必要な必修単位です。修了要件は、必修を含めて30単位以上です。各専修免許を取得するには、必修を含めて所定の単位数を履修する必要があります。(2027年度以降は変わることがあります。)*1 特別支援学校教諭専修免許状は知的障害・肢体不自由・病弱の3領域です。

※聴講生と科目等履修生の制度があります。詳細は、教務部・大学院事務室までお問い合わせください。